

令和
7年度

八戸市遺跡調査報告会 発表資料集



目 次

■^{いちおうじ}一王寺遺跡（縄文時代）・・・・・・・・・・・・・P4

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 山田 貴博

■^{まつがさき}松ヶ崎遺跡（縄文時代）・・・・・・・・・・・・・P6

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 宇庭 瑞穂

■^{やわた}八幡遺跡（古 代）・・・・・・・・・・・・・P8

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 吉田 仁香

【特別報告】

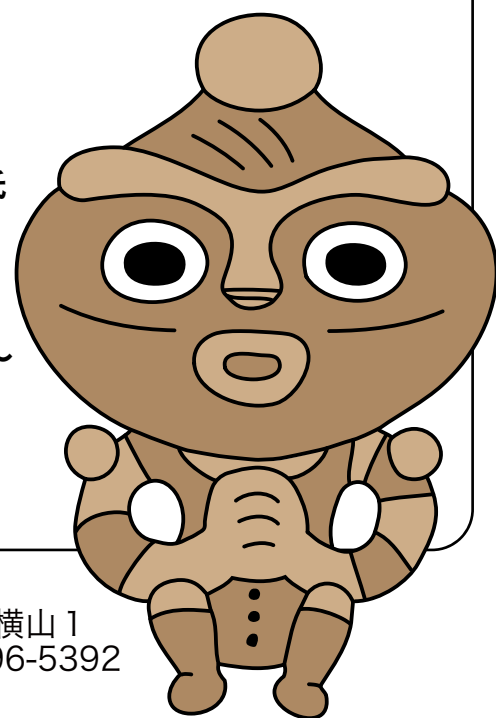
■^{なかのたい}中野平遺跡（古 代）・・・・・・・・・・・・・P10

おいらせ町 阿光坊古墳館 学芸員 小田桐 孔誌 氏

◎日 時：2025年11月8日（土） 午後2時～

◎会 場：是川縄文館 1階 体験交流室

◎主 催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館



八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1
TEL 0178-38-9511 / FAX 0178-96-5392

	No.	遺跡名	調査原因	調査面積 (㎡)	調査期間	時代／種類
試 掘 調 査	1	沢目遺跡①	個人住宅建築	12	4 月 8 日	縄文（早）／散布地
	2	盲堤沢（2）遺跡①	蓄電池設置	10	4 月 10 日	縄文（後）／散布地
	3	八幡遺跡①	個人住宅建築	12	4 月 25 日	縄文（晩）、弥生（前）、奈良、平安、中世、近世／集落跡、社寺跡
	4	昼巻沢遺跡①	送電線建替工事	16.25	4 月 25 日	縄文（早・後）／散布地
	5	直渡（1）遺跡①	太陽光発電設備設置	160	5 月 22・23 日	縄文（前・中）／散布地
	6	寺の上遺跡①	個人住宅建築	58	5 月 26・27 日	縄文（中）／散布地
	7	市子林遺跡①	個人住宅建築	25	5 月 28 日	縄文（早・前・中・後・晩）、古墳、奈良、平安、中世、近世／集落跡
	8	稲荷後（1）遺跡①	太陽光発電所設置	700	5 月 28 日～6 月 3 日	縄文（早・前）、平安／散布地
	9	法霊林遺跡①（9 地点）	個人住宅建築	30	6 月 3 日	縄文、奈良、平安／集落跡
	10	八幡遺跡②（8 地点）	個人住宅建築	19	6 月 17・18 日	縄文（晩）、弥生（前）、奈良、平安、中世、近世／集落跡、社寺跡
	11	熊野堂遺跡①	個人住宅建築	13.5	6 月 18 日	縄文、奈良、平安／集落跡
	12	市子林遺跡②	個人住宅建築	9	6 月 19 日	縄文（早・前・中・後・晩）、古墳、奈良、平安、中世、近世／集落跡
	13	下毛合清水遺跡①	資材置場及び 大型車両待機場造成	21	6 月 23 日	縄文（前・中・後）、平安／散布地
	14	直渡（2）遺跡①	太陽光発電設備設置	12	7 月 1・2 日	平安／散布地
	15	沢目遺跡②	個人住宅建築	12	7 月 2 日	縄文（早）／散布地
	16	石橋遺跡①	建売住宅建築	5	7 月 8 日	平安／集落跡
	17	新井田古館遺跡① （37 地点）	個人住宅建築	11	7 月 8～10 日	縄文（早・前・中・後）、奈良、平安、中世、近世／集落跡、城館跡
	18	館平遺跡①	個人住宅建築	11	8 月 5 日	縄文（早・中・後）、平安、中世／集落跡・城館跡
	19	山内遺跡①	個人住宅建築	13	9 月 10 日	縄文（前・中・後）、平安／散布地
	20	細越遺跡①	個人住宅建築	13	9 月 11・12 日	奈良、平安／散布地
	21	山内遺跡②	個人住宅建築	1.5	10 月 8 日	縄文（前・中・後）、平安／散布地
	22	熊野堂遺跡②	個人住宅建築	1	10 月 15 日	縄文、奈良、平安／集落跡
	23	新井田古館遺跡②	個人住宅建築	15	10 月 15 日	縄文（早・前・中・後）、奈良、平安、中世、近世／集落跡、城館跡
	24	市子林遺跡③	個人住宅建築	4	10 月 30 日	縄文（早・前・中・後・晩）、古墳、奈良、平安、中世、近世／集落跡
本 発 掘 調 査	25	松ヶ崎遺跡 11 地点	長芋作付け	200	4 月 7 日～6 月 13 日	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚
	26	熊野堂遺跡第 11 地点	個人住宅建築	40	4 月 7～25 日	縄文、奈良、平安／集落跡
	27	田面木遺跡第 63 地点	長芋作付け	700	6 月 2～18 日	縄文（早・前・中・後・晩）、弥生、奈良、平安／集落跡
	28	法霊林遺跡第 9 地点	個人住宅建築	22.2	6 月 10～13 日	縄文、奈良、平安／集落跡
	29	八幡遺跡第 8 地点	個人住宅建築	140	7 月 7 日～8 月 18 日	縄文（晩）、弥生（前）、奈良、平安、中世、近世／集落跡、社寺跡
	30	新井田古館遺跡第 37 地点	個人住宅建築	120	8 月 19 日～10 月 3 日	縄文（早・前・中・後）、奈良、平安、中世、近世／集落跡、城館跡
史 跡 確 認	31	一王寺遺跡	史跡内容確認調査	320	7 月 1 日～10 月 31 日	縄文（早・前・中・後・晩）、弥生（前）、奈良、平安、近世／散布地、集落跡



令和7年度発掘調査遺跡位置図

いちおうじ 一王寺遺跡

-Amazing Jomon Dynamism! -

1. 遺跡の概要

本遺跡は、中居遺跡・堀田遺跡を含む「史跡是川石器時代遺跡」のひとつで、面積は約32万6千㎡と、3遺跡の中で最も広い遺跡です。新井田川左岸に面する、標高20～40mの緩やかな傾斜地から標高100m前後の丘陵に立地しています。

これまでの調査により、遺跡の北側に長田沢、南側には寺ノ沢といった新井田川に合流する埋没した沢地形があり、それらに挟まれた台地の平場を中心に縄文時代前期後半～後期前半（約5,900～4,000年前）の集落が広がっていたことがわかっています。

八戸市教育委員会では、今後の史跡整備に向けて、令和元（2019）年から史跡指定地南側を中心に、内容確認のための発掘調査を行っています。今回の調査では、丘陵近くの北西側斜面と未調査の寺ノ沢近くの南東側斜面の、合計約7,600㎡を対象にトレンチ調査を行いました。

2. 検出遺構

今回の調査では、縄文時代の竪穴建物跡12棟・土坑8基（うちフラスコ状土坑6基）・盛土遺構、古代の竪穴建物跡2棟、時期不明の土坑2基・溝跡2条がみつかりました。

寺ノ沢に近い南東側斜面の調査区では、多量の縄文土器や炭、動物の骨などを含む人為的な土の堆積である「盛土遺構」が厚く堆積していることを確認しました。縄文時代前期後半から中期中頃の遺物がみつかる場所と縄文時代中期中頃の遺物のみがみつかる場所があり、時期によって盛土遺構の範囲が異なると考えられます。また、使われなくなった竪穴建物跡に、遺物を多量に含む人為的な土の堆積が認められ、縄文土器が密集して出土した場所もあります。

調査区南西側では、盛土遺構の下から縄文時代前期後半とみられる竪穴建物跡が7棟みつかりました。そのうちのひとつでは、土器埋設炉（土器を地面に埋めて作られる炉）が16基みつかりました。古い炉を壊して作り替えられているものもあり珍しい事例です。調査区北側では縄文時代中期後半とみられる竪穴建物跡が4棟みつかりました。

3. 出土遺物

今回の調査では、縄文土器（主に前・中期）を中心に、土製品（板状土偶・有孔土製品など）、石器（石槍・尖頭器・石鏃・石錐・石匙・スクレイパー類・石錘・磨製石斧・磨石・敲石・半円状扁平打製石器・石皿など）、石製品（有孔石製品・石冠・北海道式石冠など）、動物遺存体、人骨、植物遺存体などが出土しました。特に、大型の板状土偶や装飾が施された石冠といった珍しいものや、縄文時代前期後半と考えられる人骨は新たな発見となりました。

4. まとめ

今回の調査によって、丘陵近くの北西側斜面では、遺構が広がらないことから部分的な土地の利用であったと考えられます。寺ノ沢近くの南東側斜面では、縄文時代前期後半では斜面地を利用した居住域が広がるのに対し、縄文時代中期後半では斜面より北側の台地の平場に居住域が広がっていたことがわかりました。

（山田 貴博）

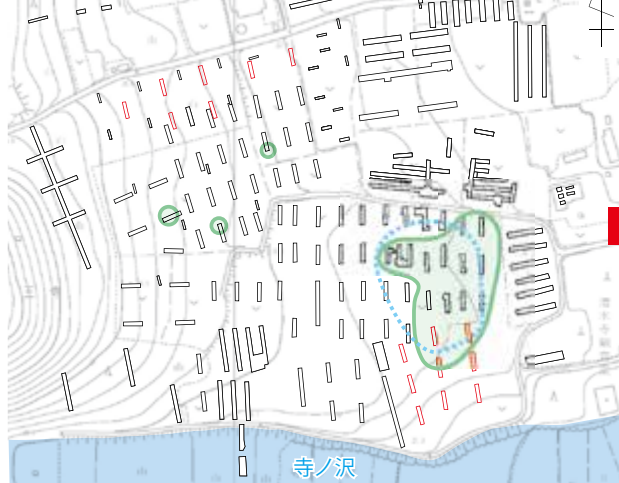
縄文時代前期中頃～後半（約 6000～5500 年前）



縄文時代中期前半～中頃（約 5500～4800 年前）



縄文時代中期後半（約 4800～4700 年前）



縄文時代後期はじめ～前半（約 4400～4100 年前）



遺構分布範囲模式図（縄文時代前期～後期）

- | | | | |
|---|--|---------------------------------------|--|
| 竪穴建物跡の範囲 | 盛土遺構・捨て場の範囲 | ★ 貝塚 | 令和 7 年度調査トレンチ |
| 土坑の範囲 | 配石遺構の範囲 | | 過年度調査トレンチ |



盛土遺構遺物出土状況（南から）

盛土遺構からは多量の縄文土器のほか、炭や動物の骨などもみつっています。



人骨出土状況（北西から）

盛土遺構の下から縄文時代前期後半頃と考えられる人骨がみつかり、下顎の左臼歯が残っていました。

まつがさき 松ヶ崎遺跡

- 7 年ごしの調査が終了！縄文時代中期の大集落 -

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市中心部から南東約 4 km に位置し、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高約 22 ～ 45m の台地に立地しています。これまでの調査によって、本遺跡は市内最大規模の縄文時代中期（約 5,000 ～ 4,500 年前）を中心とした集落跡であることがわかっています。

今回報告する第 11 地点は、遺跡のほぼ中央に位置します。長芋作付けに先立ち、令和元（2019）年から令和 7（2025）年までの 7 年間で、約 8,544 m² の発掘調査を行いました。

2. 検出遺構

第 11 地点の調査では、縄文時代中期の^{たてあな}竪穴建物跡 221 棟・^{ほったて}掘立柱建物跡 8 棟・^{どこう}土坑 238 基（うちフラスコ状土坑 78 基）・^{もりど}盛土遺構、古代の竪穴建物跡 2 棟・掘立柱建物跡 1 棟など、縄文時代中期を中心に多数の遺構がみつかりました。

調査区北西側（令和 4 ～ 7 年度調査範囲）では、第 11 地点の全遺構数の 7 割以上を占める多数の竪穴建物跡がみつかり、時期は縄文時代中期中頃から後半が主体です。特に北西側では竪穴建物跡が何棟も重なるようにしてみつかり、拡張を行った痕跡があるものや火事などで焼けた痕跡のあるものが複数みられました。

調査区西側では、土器などの遺物や土砂が多量に廃棄された状態でみつかる盛土遺構（捨て場）がみつかりました。規模は南北約 40m・東西約 30m・厚さ最大 1.2m で、マウンド状に盛り上がっています。竪穴建物が使われなくなった後の^{くぼち}凹地に土器や土砂が捨てられ、縄文時代中期中頃から後半の間に、少しずつその範囲が広がっていったことがわかりました。

また、貯蔵施設とされるフラスコ状土坑が多数みつかりました。フラスコ状土坑は深さ 2m 程度のものが多く、なかには土器などの遺物や炭化材、獣骨などが廃棄されたものもありました。

3. 出土遺物

これまでの調査で、縄文土器（中・後期）を中心に、石器（^{せきぞく}石鏃・^{せきそう}石槍・^{ませいせき}磨製石斧・^{たたき}敲石・石皿・すり石など）、土製品（^{どぐう}土偶・^{たく}鐸形土製品など）、石製品（^{せきぼう}石棒・^{せつかん}石冠・垂飾品など）、骨角器、炭化種子（クルミ・クリ）、獣骨（シカなど）など、多様な遺物が出土しました。

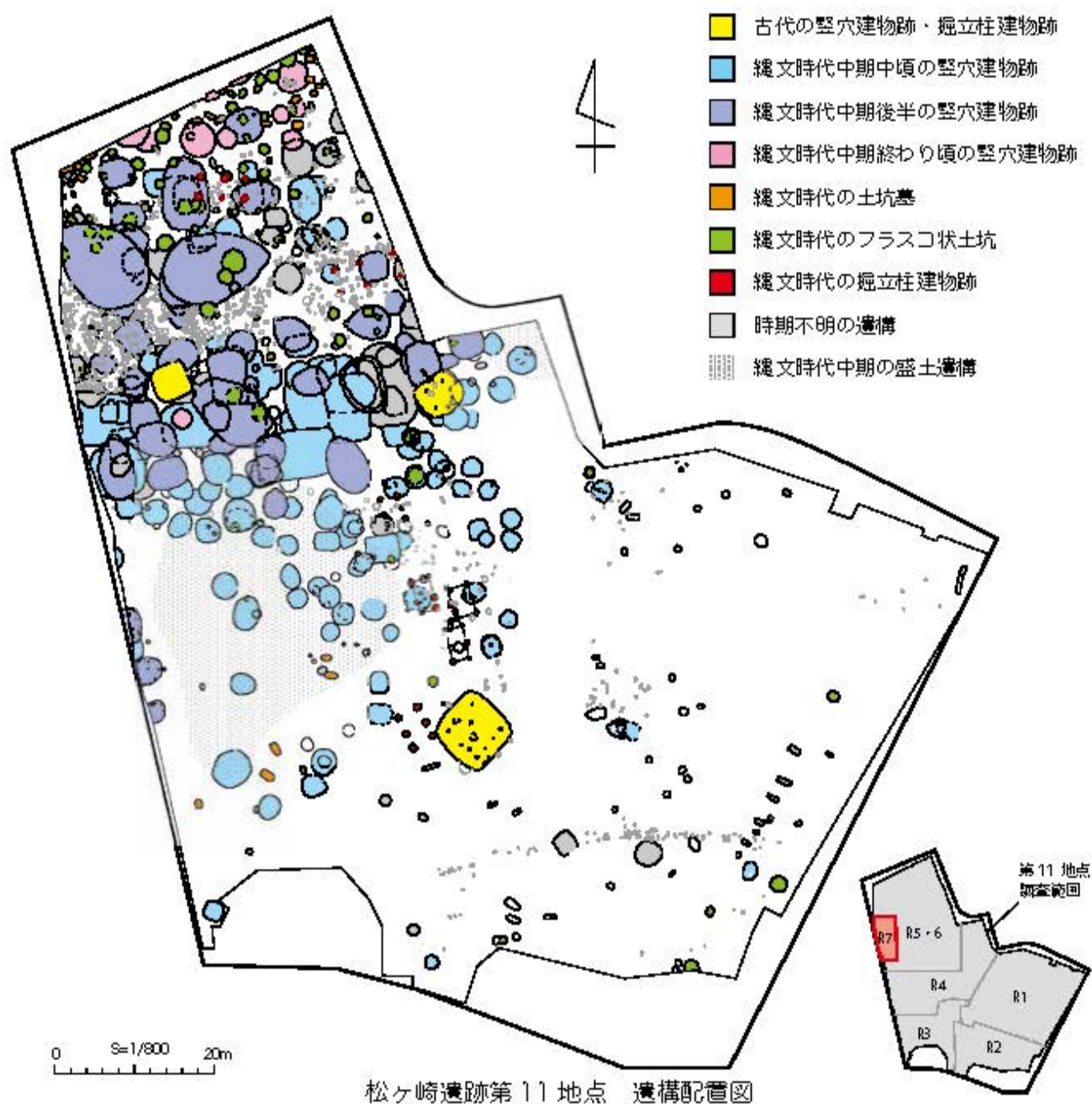
縄文土器は、縄文時代中期中頃から後半のものが特に多く、中期末のものは少数です。遺構はみつかりませんでしたが、縄文時代後期前半の遺物も一定数出土しており、周辺に後期の集落が存在している可能性があります。

4. まとめ

遺構分布を見ると、竪穴建物跡などの遺構は調査区北西側に特に密集し、南東側は希薄です。このことから、大規模な集落が調査区の北西～西側に広がっていると考えられます。

遺構の分布を時期別にみると、新しくなるにつれて南側から北側に移動していく傾向がみられます。竪穴建物跡が多数みつかり、拡張による建替えや新旧関係を持つ重なりがみられることや、また周辺には現在も水が湧く場所があることから、水源に近い台地の上で少しずつ場所を移動しながら、長い期間にわたって人びとが暮らし続けたと考えられます。

（宇庭 瑞穂）



令和7年度調査区全景（東から）
くぼんでいるところが全て竪穴建物跡です。
何棟も重なっており、同じ場所に繰り返し建物を
作ったようすが窺えます。



SI142 竪穴建物跡 遺物出土状況（南から）
竪穴建物跡から、土器などの遺物が多量にみつかり
ました。建物が使われなくなった後の凹地に捨てた
と考えられます。

やわた 八幡遺跡

- 大変暑い現場でしたが、たくさんの遺構がみつかりました -

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市の中心部から南西へ約 5.5km に所在し、馬淵川^{まべち}右岸の東から西に向かって傾斜する標高 6 ～ 20m の低位段丘上に立地します。

昭和 26 年に慶應義塾大学の江坂輝弥氏^{えさかてるや}や郷土史家の音喜多富寿氏^{おときたとみじゆ}らにより発掘調査が行われ、縄文時代晩期の遺跡であることがわかりました。昭和 62 年以降は八戸市教育委員会や青森県教育委員会によって発掘調査が数度行われ、新たに弥生時代や古代、中世、近世の各時代の遺構・遺物がみつかりました。これらの発掘調査により、縄文時代晩期の中心的な集落遺跡の 1 つと推測されており、古代や中世においても拠点集落であったと考えられています。

2. 検出遺構

令和 7 年度の個人住宅建築に伴う発掘調査では、約 140 m² の調査範囲から、平安時代の^{たてあな}竪穴建物跡 2 棟 (SI84、SI91)、中世の竪穴建物跡 1 棟 (SI85)・溝跡 1 条 (SD5)、時期不明 (平安時代以降か) の竪穴建物跡 13 棟・土坑^{どこう} 14 基、溝跡 1 条 (SD6) がみつかりました。遺構は密集し重なってみつかり、古い遺構を壊すように新しい遺構がつくられています。

中世の SD5 溝跡は、検出したもので長さが約 15m、幅が約 3.5m、深さは約 1.7m となっています。これまでの八幡遺跡の調査でみつかった溝跡の中では、最も規模が大きいです。SD5 溝跡の断面の形は薬研状^{やげん}で、下部が二重になっています。堆積状況から、二重の状態と同時に利用されていたと推測できます。

3. 出土遺物

今回の発掘調査では、縄文土器 (晩期)、土偶^{どぐう}、石器 (磨製石斧^{ませいせきふ}、敲石^{たたきいし}、砥石^{といし})、弥生土器、土師器 (坏・甕^{じき}・^{つき}・^{かめ})、須恵器^{すえき}、鉄製品 (刀子^{とうす}、釘^{くし})、土製品 (羽口^{はぐち})、動物骨 (ウシ)、陶磁器^{とうじき}などが出土しました。

ほぼ全ての遺構で、異なる時代の遺物が同一の層から出土しています。遺構がつくられた際に掘り返された過去の遺物とともに、その当時使用していた遺物も一緒に埋まったと考えられます。縄文時代の遺構はみつかりませんでしたが、縄文時代の遺物が多量に出土しており、後の時代に建物を建てる際に壊され残っていない可能性もあります。

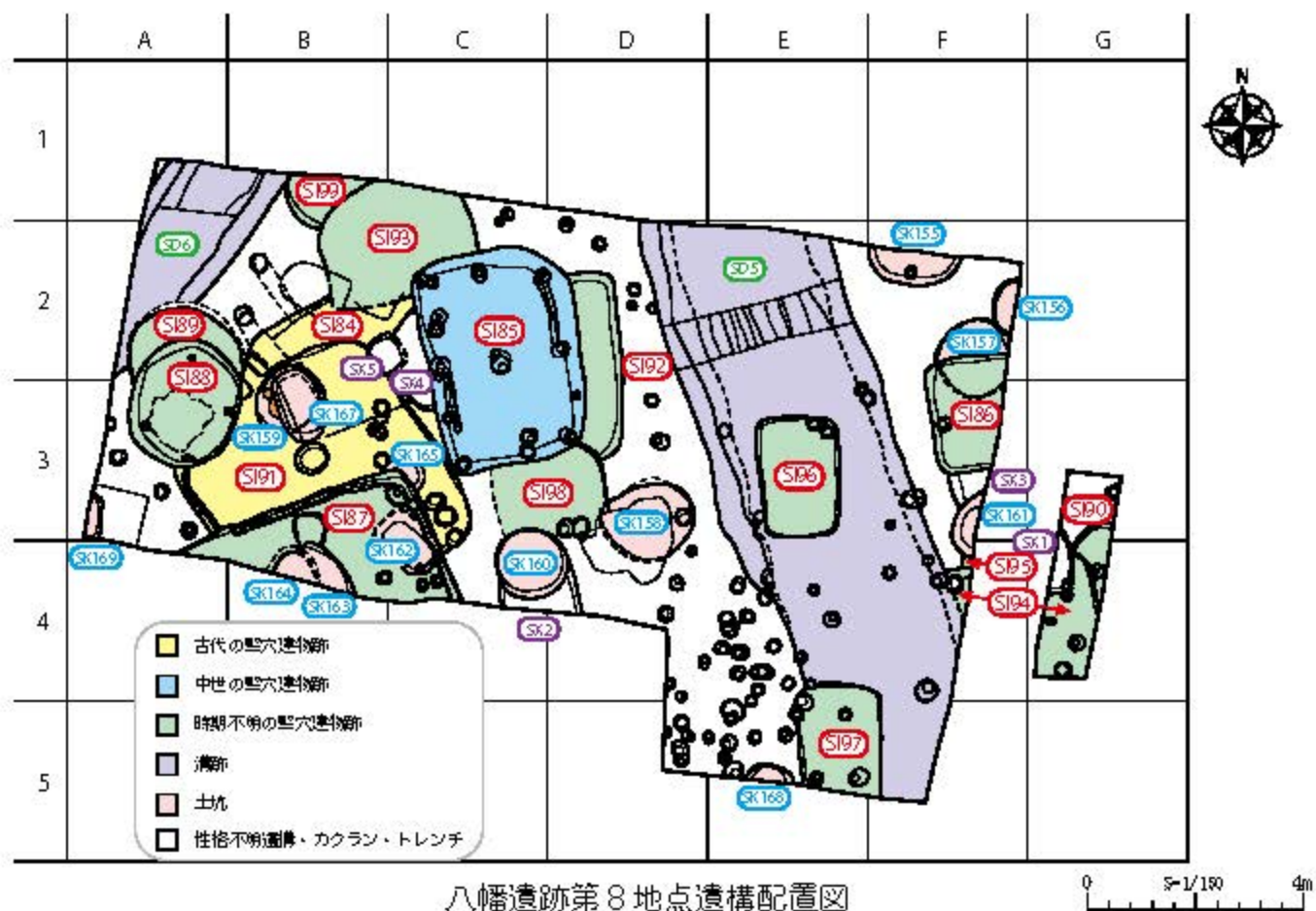
SD5 溝跡の上層から出土した陶磁器は中国製の青磁碗^{せいじ}で、おおよそ 13 世紀中頃～ 14 世紀前半のものと考えられます。八戸ではこの時期の遺物が少ないため、貴重な資料です。

4. まとめ

今回調査した八幡遺跡第 8 地点は、古代の竪穴建物跡を壊すように中世の竪穴建物が建てられるなど、同じ場所に何度も建物を建てた痕跡が残っています。そのため、これまでの八幡遺跡の調査成果と同様に、長期にわたって利用されていた場所であると考えられます。

また、八幡遺跡の近くには櫛引八幡宮^{くしひき}や櫛引城があり、中世に何らかの施設があった可能性も考えられます。SD5 溝跡はそれらに関連する可能性もあります。

(吉田 仁香)



【特別報告】^{なかのたい}中野平遺跡第 63 地点

- ショッピングモール西側に広がる古代の住宅街 -

1. 遺跡の概要

中野平遺跡は、太平洋から約 4 km、奥入瀬川^{おいらせ}下流域に位置しています。標高は 15 ～ 25 m 程度の柴山段丘^{しばやま}上に立地しています。東西 1,700 m、南北 500 m の広範囲にわたり、町内に分布する 46 件の遺跡で最大の遺跡です。遺跡周辺には大型ショッピングセンターが存在するほか、太陽光発電設備設置工事等の開発が盛んで毎年のように調査を行っており、^{たてあな}堅穴建物跡や^{みぞ}溝状土坑などの成果を上げています。

これまでの調査では古代の堅穴建物跡約 190 棟以上を調査し、現在まで埋まり切らず窪み^{くぼ}として残っている堅穴建物跡も観察されています。平成 2 年度に青森県埋蔵文化財調査センターが実施した第二みちのく有料道路建設に係る調査では縄文時代・平安時代の堅穴建物跡が複数棟検出され、土器・石製品についても数多くみつかっています。

令和 6 年度は、おいらせ町統合新庁舎・新病院の建設予定地に決定されたことに伴い、遺跡南東部に位置する 2,250 m² の範囲について本発掘調査を行いました。

2. 検出遺構

調査区内では縄文時代、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認しました。奈良・平安時代のものが大半を占め、第二みちのく有料道路建設に係る調査でみられた縄文時代の堅穴建物跡は今回の調査では検出されませんでした。調査では、奈良時代の堅穴建物跡 5 棟、平安時代の堅穴建物跡 7 棟、^{えんけいしゅうこう}円形周溝 1 基を検出しました。

第 8・第 10 号堅穴建物跡では壁溝と仕切り状の溝跡が確認されました。おそらくは仕切り板が設置されたものと考えられます。町内では根岸遺跡^{ねぎし}の第 7 号堅穴建物（平成 4・5 年度調査）の構造に類似点がみられます。第 8 号堅穴建物跡は出土した遺物から 8 世紀代、奈良時代の堅穴建物跡であると推定できます。

第 9 号・第 13 号堅穴建物跡は覆土中に古代の十和田 a 降下火山灰 (To-a) を検出しており、9 世紀から 10 世紀前葉頃に廃絶を受けた平安時代の建物であると考えられます。

調査区南西部の第 11 号・13 号堅穴建物跡の間で検出された^{えんけいしゅうこう}円形周溝は、直径内径 3.3m、外径 5.5m 程度の楕円形で、溝幅 24 ～ 53 cm、深さ 42 cm の溝が巡っていました。周溝の南部からは土師器甕^{じきかめ}が出土しました。土坑は計 15 基、溝状土坑は北部に 3 基、南部に 1 基検出しました。

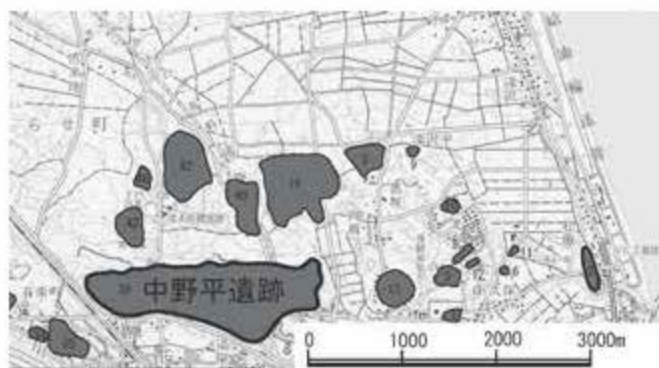
3. 出土遺物

出土遺物については、縄文時代の土器・石器、奈良・平安時代の土師器・須恵器^{すえき}、石製遺物、金属製遺物がトロ箱 7 箱分出土しました。中でも第 12 号堅穴建物跡内からは、口縁部に沈線文がみられる土師器甕や、出羽型長胴甕^{でわちようどう}の出土がありました。

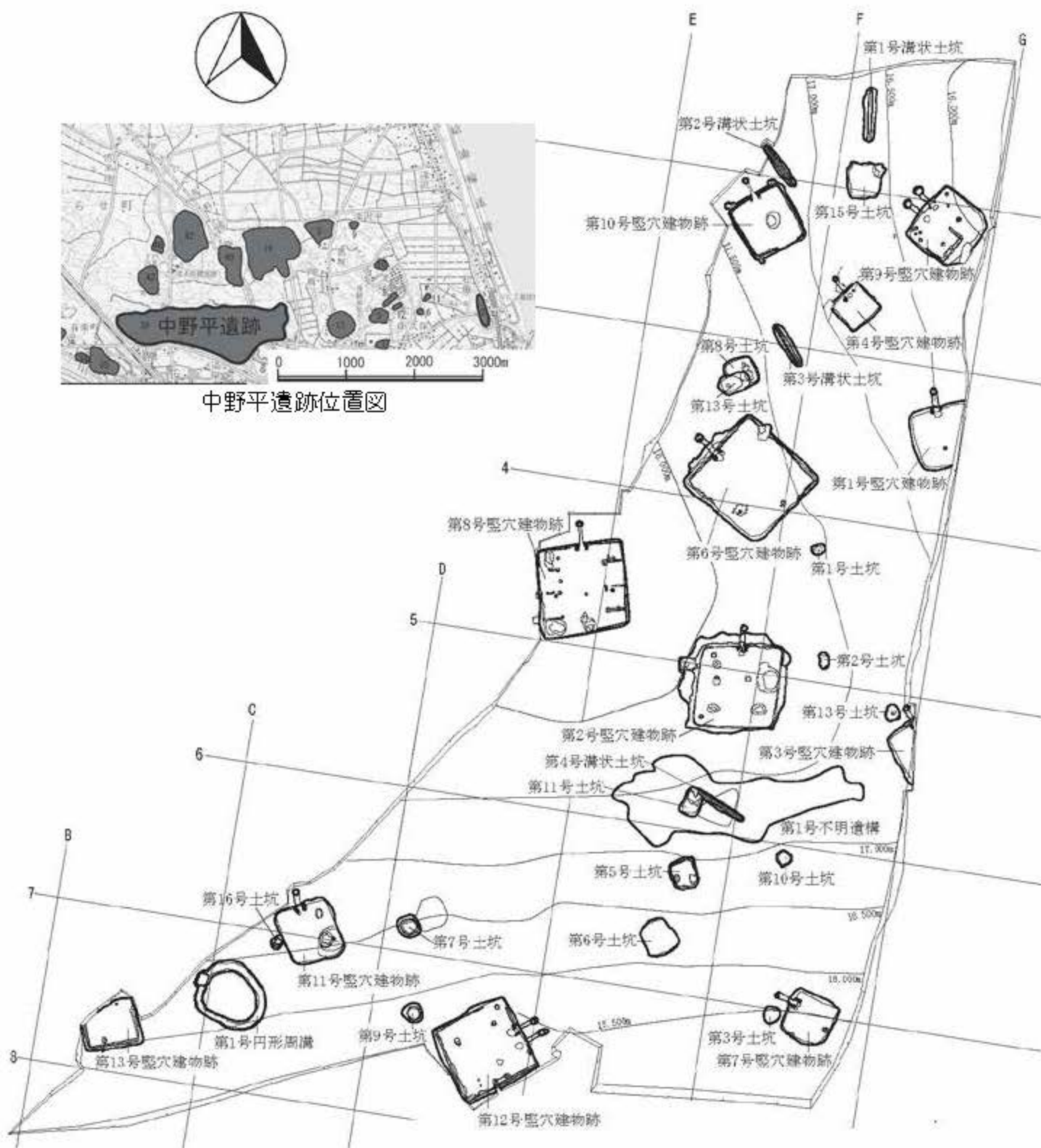
4. まとめ

奈良・平安時代の遺構が大半を占め、堆積状況や遺物から、8 世紀代までに造営・廃絶した堅穴建物跡と、十和田 a 火山灰 (To-a) が降下する 10 世紀前葉までに廃絶された堅穴建物跡とがあり、奈良期のものは調査区の中央から北部に多い傾向がみられました。一方、平安期のものは調査区南部に多くみられました。調査区中央部では両方が混在するように分布していました。本発掘調査では、過去の調査から考察されていた古代の堅穴建物跡の密集地であることの補強資料になったと共に、出羽型甕出土から見る出羽地方との交流についてもまた 1 つ手掛かりを得ることとなりました。

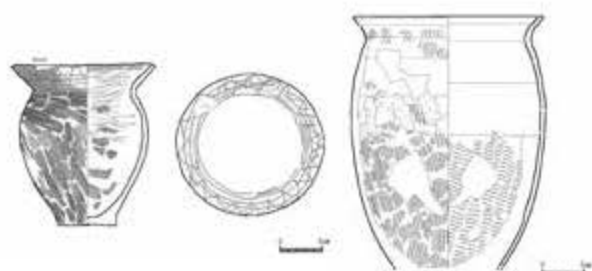
(おいらせ町教育委員会 小田桐 孔誌)



中野平遺跡位置図



中野平遺跡第 63 地点遺構配置図



←出土遺物

左：第 12 号堅穴建物跡『口縁線刻模様甕』

右：第 12 号堅穴建物跡『出羽型甕』



発掘調査作業のようす

発掘調査はたくさんの作業員さんに支えられています。

左上：八幡遺跡

右上：松ヶ崎遺跡

下段：一王寺遺跡

旧石器	縄文						弥生	古墳	古代			中世			近世	近代
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期			飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸	明治

←松ヶ崎
←一王寺

←八幡
←中野平

今回の報告遺跡の主な時代

令和7年度 八戸市遺跡調査報告会 日程

- 9：00 出土品展示室開場
- 13：30 報告会受付開始
- 14：00 開会挨拶
- 14：05 令和7年度調査概要
- 14：10 調査成果報告① 一王寺遺跡
- 14：30 調査成果報告② 松ヶ崎遺跡
- 14：50 休憩
- 15：05 調査成果報告③ 八幡遺跡
- 15：25 特別報告 中野平遺跡（おいらせ町）
- 15：45 質疑応答
- 15：55 閉会挨拶

